



撮影＝齊田 勤
photo by Saida Tsutomu
赤坂・浅田にて

浅田会

前列左から

宋文洲 (ソフトブレーン会長)、土岐勝司 (丸善専務)、
元久存 (ハンズオンクリエイト社長)

後列左から

九鬼祐一郎 (アーク取締役)、伊佐治岳生 (グッドウィル・グループ執行役員)、
広野道子 (21LADY社長)、小松弘明 (ソフトブレーン副社長)



この会は「四十代経営者の会」の一部で、今回は、土岐さんの転職祝いを兼ねてます。加賀料理店「浅田」で開催したこともあり、この名前をつけました。「四十代経営者の会」は、会社の肩書も、職種も関係なく、気の合う仲間が集まるフランクな会ですが、共通点として、プロの経営者を目指している、ということがあります。

特に今回のメンバーには、いくつもの共通点があります。まず、四十代であること。そして、サラリーマンを経験し、役員・経営者も経験していること。それから、異なる業種に転職した経験がある、ということですね。

例えば、土岐さんはCSKホールディングスから丸善に転職しましたし、元久さんは山一證券から松井証券を経て、ハンズオンクリエイトを起業しました。広野さんもベンチャーリンクなどを経て、21LADYを創業しましたし、伊佐治さんは富士銀行などを経て、グッドウィルに転職しました。九鬼さんも山一証券、松井証券、そしてアークと転職しています。私もソフト

ブレーンを起業する前、会社員をしていましたし、小松も三和銀行にいました。

転職を経験したとしても、もちろん、ただ流れているわけではなく、ただ流れているわけではなく、その世界しかわからなくなりますが、他社に出ることで、わかることがたくさんあると思います。その意味で、転職は意味あるものだと思います。

事業とは、頑張れば成功するものではありません。

今回の主役である土岐さんも、異業種への転職でしたが、土岐

さんはCSK時代の経験を活かし、これまでの丸善にはない発想をもって仕事をしています。

土岐さんは、転職か起業か、悩んでいる時期があり、そのときも、お互いの経験を語り合い、相談に乗りました。そういった経緯があったので、お祝いと事後報告ということで、今回集まったのです。

「四十代経営者の会」は、個人的に好きな人間が集まっている会なので、五十代になっても、名前を換えて、末永く存続させたいと思っています。(宋記)